

## 事後評価報告書(国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID))

1. 研究・調査課題名:「津波力・津波漂流衝突力を考慮した地域集約型居住施設の耐波設計に関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 名古屋大学 大学院工学研究科 教授 水谷 法美

2-2. アメリカ側研究代表者: リーハイ大学 土木環境学部 准教授 Clay Naito

3. 総合評価: 研究・調査の目標及び実施環境にてらして、優れた成果が得られている

4. 事後評価結果

### (1)研究・調査成果の評価について

日米連携の元、発災後の早い時期に現地調査が実施されており、鉄筋コンクリート構造物に作用する津波の影響に関して有意義なデータ収集がなされた。また、日米間の研究連携もうまく実行されている。日本側の数値シミュレーション、米国側の実験とお互い生かし合う形になっている。

### (2)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

研究成果を南海トラフ地震のシミュレーションに適用し、関連自治体や企業などに提供している。また高いレベルの論文集に数編の論文が公表を予定されており、今後のさらなる発展が期待される。研究期間終了後も継続した研究連携が予定されており、望ましい展開であると言える。

### (3)総合評価コメント

時宜を得た研究、社会的なインパクトのある研究となっており、さらに、それを共通の興味を持つ相手国側との協働により行い、一般市民の安全に配慮した津波避難ビルの有意性や設計外力を示すなど、短期間で限られた予算であったにもかかわらず、大きな成果が得られている。実用化に向けて、さらなる研究成果に期待する。